

授業科目	人権と社会					単位	2	
履修	選択	関連資格				ナンバリング	TO10407J	
開講年次	2・3・4 年	開講時期	前期	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP1-3			
担当教員	新谷 恭明							
授業概要	人権は近代市民社会構成の基本原理である。それゆえに人権の侵害は社会の根幹にかかわる重要問題である。本講義では人権侵害である社会的差別が社会的な意味で問題であることを理解した上で、人権の歴史と理論について概要を把握する。次いで日本における人権問題の歴史的形成と現代的意味について学ぶ。被差別部落及び部落差別と解放運動、女性の人権、子どもの人権など人権問題の歴史と現状について考察する。							
学生が達成すべき行動目標	1. 人権問題についての基本的な歴史について説明できる。 2. 人権問題の現状について説明できる。 3. 差別事象に対してどう対処すべきか説明できる。							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート 外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	100	0	0	0	10	0	100	
知識・理解 (DP1-1)	40	0					40	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	40	0			0		40	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)	20						20	
態度 (DP4-2)								
態度 (DP4-3)	0						0	
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
人権問題について、講義に示唆を受けた上で、文献等で調べ、新たな知見を持つ。				講義中に言及した人権問題に関する知識について説明できる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	講義の概要及び近代における人権の形成			講義		提出した課題以外の課題について研究しておくこと		90

2	部落差別とは何か	講義	提出した課題以外の課題について研究しておくこと	90
3	被差別部落の歴史1;差別の生成過程	講義	提出した課題以外の課題について研究しておくこと	90
4	被差別部落の歴史2;身分制度の解体と近代的差別の始まり	講義	提出した課題以外の課題について研究しておくこと	90
5	被差別部落の歴史3;部落改善運動と融和運動。その可能性と課題	講義	提出した課題以外の課題について研究しておくこと	90
6	部落差別の歴史4;水平社の結成と闘い、その終焉。	講義	提出した課題以外の課題について研究しておくこと	90
7	「同和」教育がしてきたこと	講義	提出した課題以外の課題について研究しておくこと	90
8	振り返りと学習成果の確認;課題について自分の知識と考えを表現する技法を深める。	discussion&writing	これまでの学修について復習しておくこと	240
9	女性の人権;ジェンダーの概念及び近代以前の女性観	講義	提出した課題以外の課題について研究しておくこと	90
10	女性の人権;近代的女性観の登場と近代家族の形成。女性の人権の生成。	講義	提出した課題以外の課題について研究しておくこと	90
11	女性の人権;女性と労働と人権	講義	提出した課題以外の課題について研究しておくこと	90
12	子どもの人権;近代以前の子ども観と近代的子ども観の形成。子どもの人権の生成。	講義	提出した課題以外の課題について研究しておくこと	90
13	優生思想と人権	講義	提出した課題以外の課題について研究しておくこと	90
14	人権と現代社会;現代社会における人権問題の諸相と課題。部落問題、女性の人権の現在、子どもの人権の現在、障がい者の人権、その他新しい人権問題とその課題。	講義	提出した課題以外の課題について研究しておくこと	90
15	全体の振り返り+学修成果の確認	講義・試験	全体の講義で考えた課題について振り返る。	300
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	高校までに学んだ日本史の知識があればいい。 日本史の知識について自信のない者は高校時代の教科書に目を通しておくといい。			
テキスト	特に使わない。史料、概要は講義中に配布する。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	講義中に指示する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	人権についての関心と問題意識を持つこと。その問題意識とつきあわせる形で講義を聴くとわかりやすい。 講義で学んだことを暗記するのではなく、自分で納得するよう自分で考えること。わからないときは自分で図書館などで調べてみる。教員への質問はいつでも受け付ける。			
達成度評価に関するコメント	基本的には最終回の学習成果の確認の結果で評価する。 毎回講義の後に提出物を書いてもらうが、これは出席の確認と講義の理解度を確認するものである。好ましくなければ減点の対象となる。 8 回目の振り返りの結果は人権問題の課題に対する答え方を学ぶのできっちり受けて、そこから学びましょう。あまりに好ましくなければ減点の対象となる。 授業中の態度は減点の対象となることがあります。殊に私語と内職は禁止です。こういうことで減点にならないようにしましょう。			